

令和２年度糸島市協定大学等課題解決型研究事業 実績報告

研究タイトル

糸島市公共施設等総合管理計画及び第１期アクションプランの取組に対する理解促進と「志摩初地域施設再配置事業」を契機とした地域活性化策について

研究者名

九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 黒瀬 武史

九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 志賀 勉

研究期間

令和２年６月１日～令和３年３月３１日

研究計画の内容

糸島市公共施設等総合管理計画の第１期アクションプランを踏まえ、合併した後の地域拠点周辺のまちづくりと公共施設の統廃合のあり方について研究する。

本年度は、昨年度整理した地域の構造や課題を踏まえ、初周辺地域のまちづくりのコンセプトや施設再配置プランの提案を行う。

研究成果

ふれあいと可也コミュニティセンターおよびその周辺を対象に現地調査を行い、施設内の段差分布や建物劣化状況、備品の保管場所等を把握した。また、施設の利用状況を把握するために、施設の利用者と管理者に対してヒアリングとアンケート調査を実施した。ヒアリングとアンケート調査により、施設に対して「段差が多い」「下足の履き替えが大変」といった課題が明らかとなった。本年度はこれらの調査に加え、可也コミュニティセンターの定期利用団体をふれあいに移動させた際の利用率を算出した。これにより、施設複合後に現在の可也コミュニティセンターの機能が存続できるかどうかの検討を行った結果、可也コミュニティセンターで行われていたすべての活動をふれあいに複合化することは難しいことが明らかとなった。

こうした調査をもとに計画を進める上で検討すべき事項を整理し、具体的なコミュニティセンターの施設計画と志摩中央公園を含む屋外計画に関する検討を行った。そして昨年末には地域住民への展示発表会を開催し、具体的提案に対する住民意見を収集した。

ヒアリングを実施した団体

- ・ 志摩卓球愛好会
- ・ 可也コミュニティセンター館長
- ・ ひよこクラブ
- ・ 志摩卓球
- ・ 糸島市 介護高齢者支援課、福祉支援課、公共施設マネジメント推進室

アンケート調査を実施した団体

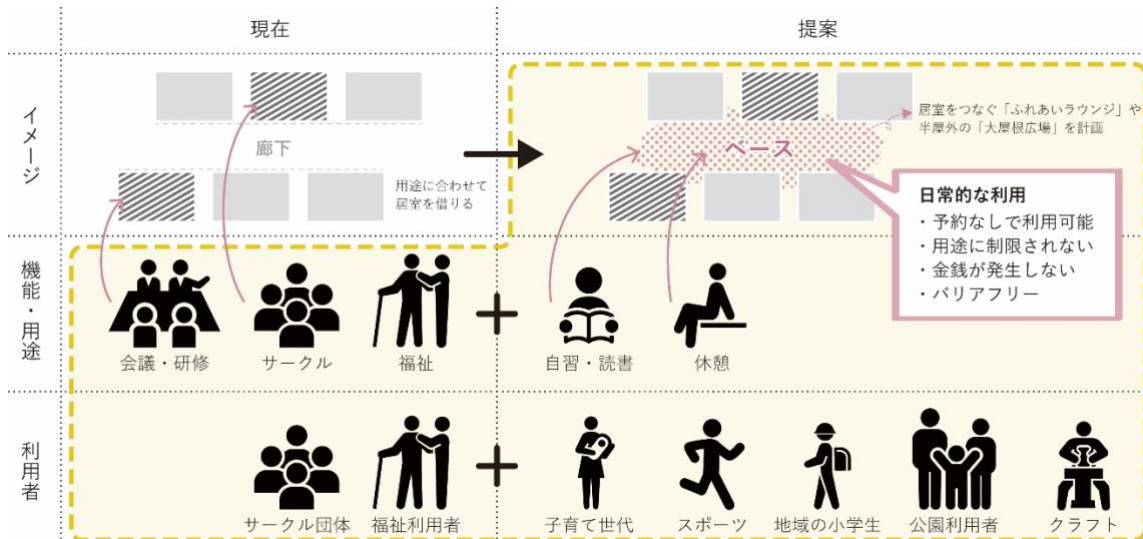
可也コミュニティセンター利用サークル（23 団体）

施設計画の提案

★誰でも気軽に利用できるコミュニティセンター

本年度の提案では、現在の施設利用者だけでなく新規利用者也利用しやすい地域拠点をつくることを目的に、誰でも気軽に日常利用できる「ベース」をコンセプトを設定した。従来のコミュニティセンターの機能だけでなく、交流・連携やスポーツ・クラフトの機能を付加することで、幅広い属性の人が利用しやすい施設計画を行った。昨年度に引き続き、本年度もヒアリングやアンケート調査を実施し、得られたキーワードをもとに計画を進めた。

施設利用者のイメージ



ヒアリングやアンケート調査で得られた意見



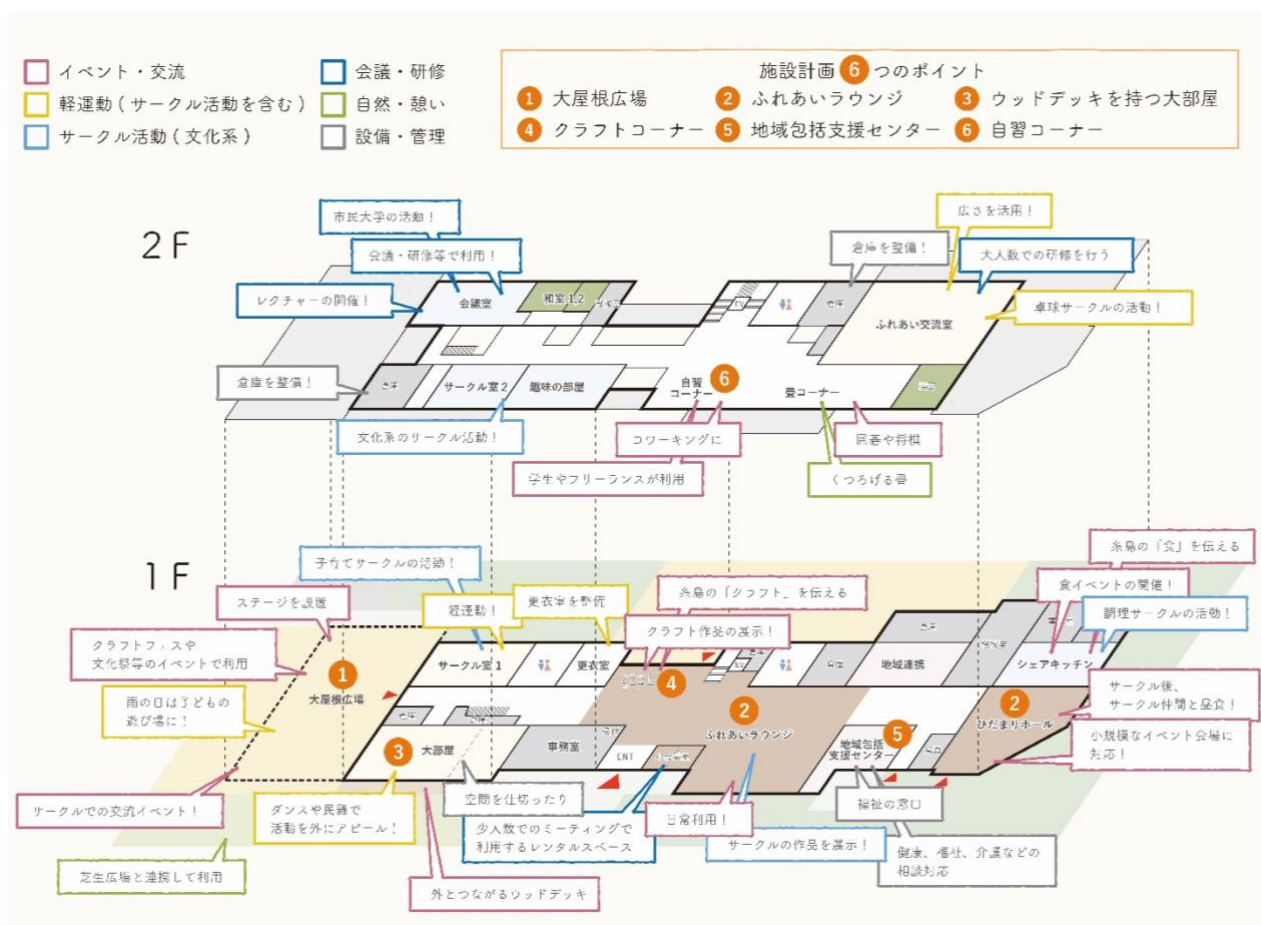
★6つのポイントを取り入れた施設計画

本年度の調査をもとに「広い共用部」「下足での施設利用」「収納スペースの増設」を計画の方針として改修検討箇所を検討した。また、ヒアリングやアンケート調査を通して得られた意見を参考に「施設計画の6つのポイント」を決定し、以下の施設計画をまとめた。

人の出入りが多い1階は、運動系サークルの活動ができる部屋や「ベース」を中心とした賑やかな空間とする。「ベース」のひとつである「ふれあいラウンジ」は、壁に仕切られていない開放的な空間を計画し、誰でも予約なしで休憩場所や交流場所として日常利用できるものとする。

2階は、主に文化系サークルの活動ができる部屋や会議・集会ができる部屋を設けて落ち着いた空間とする。「ふれあい交流室」は50人以上の大規模な集会や卓球サークル等の活動が行えるものとする。

施設計画図



製作した 1/100 の施設模型



ふれあいラウンジのイメージパース



★施設と一体的な利用ができる屋外計画

健康福祉センターふれあい周辺を防災公園として再整備するとともに、より幅広い利用ができるように、以下の屋外計画をまとめた。

可也コミュニティセンター跡地は大規模なイベントに対応できる「イベント広場」として整備する。イベント広場と北側駐車場の間には小屋根を設け、日常時には雨風を防げる通路として、イベント時にはプロムナードの代替となる販売ブースとして利用する。また、ふれあいの西側にかかる「大屋根」は、日常時は芝生広場で子どもを遊ばせる親の休憩スペースやサークル活動の場として誰でも気軽に利用でき、イベント時にはステージを設けたライブ会場や店舗が並ぶ飲食ブースとして利用できるものとする。

既存道路のうち、ふれあいの前面の通り抜け道路は通過交通や路上駐車がが多く、ふれあいと志摩中央公園の行き来が危険なため廃止し、ふれあい北側に新設する。廃止した前面道路は運動広場や芝生広場として再整備し、施設と一体的な利用ができるものとする。

屋外計画図



大屋根のイメージパース



ウッドデッキのイメージパース



展示発表会

本研究の中で九州大学が行ってきた活動や計画案の共有および意見収集を目的として、令和2年12月10～12日の3日間、可也コミュニティセンターパソコン室にて展示発表会を開催した。事前にポスターを作成・配布して住民に参加を呼びかけ、当日は展示パネルや模型を用いて学生が来場者へ説明し、意見交換を行った。

当日の様子

展示発表会には計97名の来場者があった。ふだん可也コミュニティセンターを利用している人だけでなく、ほとんど利用したことがない人も多く来場された。



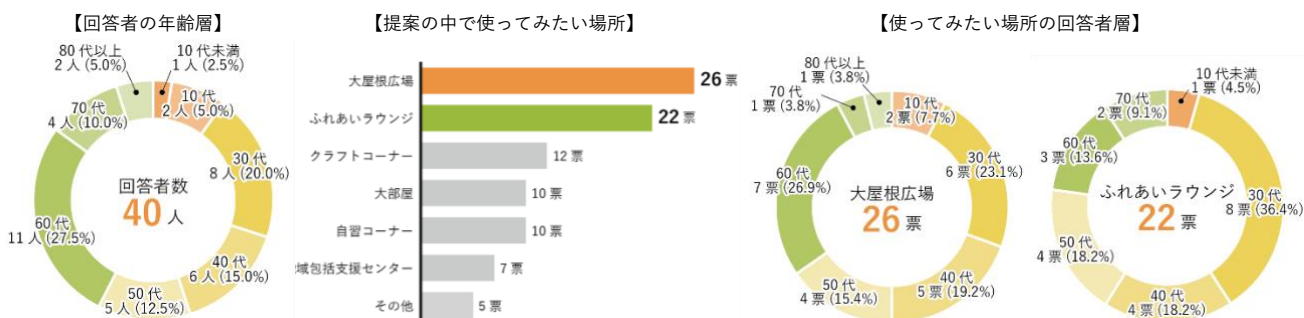
事前に配布したポスター



アンケート結果

来場者に対して展示内容に関するアンケートを行い、3日間で計40名から回答を得た。

今回の提案で使ってみたい場所（複数回答可）では、「大屋根広場」「ふれあいラウンジ」が多く選ばれた。大屋根広場は全ての年齢層から広く支持され、ふれあいラウンジは、30代から多く支持されていた。



今後も同様のイベントに参加したいかという質問では9割以上の人が「参加したい」と回答した。

また、自由記述欄には展示発表会への様々な意見が寄せられた。

【自由記述】

- ・わくわくした。(10代女性)
- ・もっと計画が具体的になったら知りたいです。(30代女性)
- ・多様な交流や活動ができる場（公共施設）として期待しています。九大生の知見を活かして一層よい公共施設を工夫していただきたい。(60代女性)

【今後イベントに参加したいか】

